編　集　後　記

米国とイスラエルによるイラン攻撃に端を発するホルムズ海峡の封鎖などで、原油、原油由来の化学品などへの大きな影響が出ています。政府は日本全体としては供給を確保していると言っていますが、新聞報道を見ている限り、注文しても入荷の確約が得られない、価格が高すぎて使用できないものが見受けられるなど問題が発生しているようです。食品の輸送費の増嵩はもちろん、食品の包材不足やそれを原因とする食品価格の増嵩も心配です。また、わが国は、各種の化学品などをアジア地域から広く輸入していますので、アジア各国とを結ぶサプライ・チェーンも不安定となってしまっているのではないでしょうか。早期の解決を強く願います。

本号が刊行される頃には、通常であれば、北海道の畑作地帯では、「小豆」や「いんげん豆」の播種も終了し、出芽期となっていると思われますが、昨年のように開花・着莢期に高温に見舞われると収量が落ちてしまう懸念があります。本号の加藤淳さんの「あずき博士の豆類歳時記」にあるように「遅まき」をされている地域もあるのでしょうか？　今後の気象の推移が大いに気になるところです。

本号では、「Made in Japanの小豆研究」、「第1回 北海道あずきフォーラム開催」、「異常気象の未来予測」の後半の「資料箱」の三つの記事で共通の話題が取り上げられています。その共通の話題は、「わが国の栽培アズキの起源」です。私が若い頃には原産地は中国と教わったものでしたが、アズキの全ゲノム解析で日本が起源であったことが判明したという研究成果が紹介されています。

わが国に起源を持つ食用栽培作物は、ウド、ヤマノイモ、セリなどと記憶していましたが、それに「アズキ」が加わったということにビックリしてしまいました。ひょっとして、大陸からの伝来の記録がはっきりしているもの以外で、全ゲノム解析をしてみると日本が起源となる作物がまだまだあるのかもしれません。非常に興味深いことです。研究予算が許すのであれば、もっと頑張って日本起源のものを探して欲しいものです。

（寺田　博幹）

「豆類時報」の内容をより充実させるために、アンケートを実施いたします。右の二次元バーコードからアンケートのページに遷移しますので、ご利用ください。なお、アンケート調査にご協力いただいた方から、抽選で50名様にデジタルギフト（500円相当）を贈呈いたします。アンケートの締切は、7月末となっています。ご協力をお願いします。

発　行
公益財団法人 日本豆類協会
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-2-1
日土地内幸町　ビル２階
TEL：03-6268-8627
FAX：03-6268-8628

豆　類　時　報
No. 123
2026年6月15日発行

編　集
公益財団法人 日本特産農産物協会
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-15-1 フジタ　人形町ビル7階
TEL：03-6689-9428
FAX：03-3663-7525